

# めだかの学校だより

平成18年8月1日  
第53号

学舎：東久留女木新田観音山  
「みどりの郷キャンプ場」内  
事務局：浜松市引佐町  
東久留女木 472-111  
TEL 053-545-0381

## 校長訓話

第五十三回校長 村木 謙弼

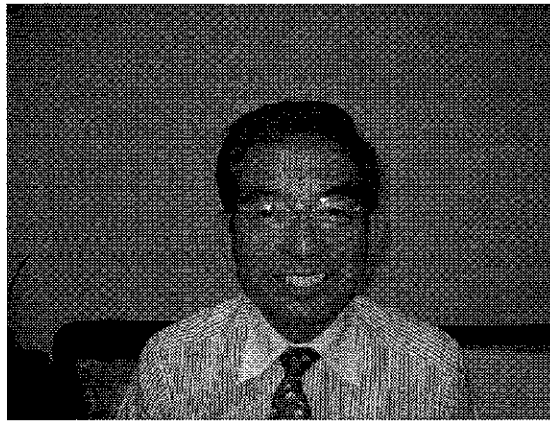
毎度有難うございます!!  
ハマナコの一休さんです、と、  
わたしはご注文を頂いた豊橋  
のお箸屋さんにお弁当をお届け  
したときのことです。

お疲れさん、遠いところあり  
がとうネと、事務所の奥からお  
母さんが出てきました。

わたしは、ごくろうさん、お  
つかれさん、は普通に使ってい  
ますが、その日は、ありがと  
う!!との一言が、グット響き  
ましたね、うれしかったですね。  
いつもは私も、お取引業者様  
が商品を届けにきてても、おつか  
れさん、ごくろうさん、で終  
わっています。アリガトウが付  
いていません。

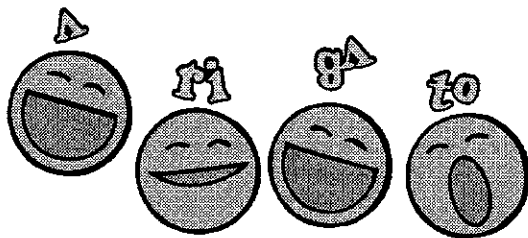
ねぎらいの言葉があっても、  
感謝の気持ちを表す言葉がつ  
いていないことに気がつきま  
した。これだ!!

“それ以来私は”ありがとう  
“という言葉が大好きになり  
また、出来るだけ使っていこう  
と思いましたネ。



きょうも宅急便のお兄さん  
が商品をお届けに来てくれま  
した。受領印を押して、アリガ  
トウございましたと言ってく

れました、私もすかさず、あり  
がとうございました”またお願  
いしますねと、思わず言ってい  
ました、言った後の気分のいい  
ことこれですよ・・・。  
こんな些細なことで気分よ  
く仕事が出来ればチヨベリグ  
ですよ!  
こんな小さなことを、今日は  
仕事場でみんなに、提案してみ  
ました。  
みんなが揃って  
ありがとう・・・。  
余分なことですが、最後まで  
お読みいただきありがとうございます  
ございました。



## めだかの学校伝言板

—第53回めだかの学校を開校するので出席しなさい。開校日/平成18年9月1日(金)6:20PMより—  
校 長/村木謙弼  
受 付/加茂光廣・加藤直樹・大場敬子・尾上美智子・齋藤昭(後見人)  
教 頭/鈴木偉代  
<時間割>【期初特別授業】(60分)  
用務員/浜口弘睦  
=失敗から学ぶ=  
給食係/若澤明弘・古田賢二郎・榊原淑友・  
「まちおこし むらおこし なぜ失敗するのか」  
萩田 博・荒木順子・西川裕子・大谷香代子  
~成功と失敗のうらおもて~  
鈴木智香枝・藤野はつえ・渡辺ミツ子(チーフ)  
—失敗の条件・あんなことこんなこと—  
<学舎>静岡県浜松市引佐町東久留女木観音山  
菅原歎一先生  
みどりの郷キャンプ場  
※給食の時間一句のお料理「まつたけご飯」  
TEL なし  
10:30 閉校

# 泳ぎ回るめだかたち

## 「全国まちづくり交流会INオホーツク」参加報告

7月7日から9日北海道サロマ湖畔で行われた全国まちづくり交流会INオホーツクに友人と参加しました。この交流会は全国のまちづくりをしている団体の交流会で、第1回の愛知県足助町開催から4回目となります。今回は東北北海道を中心に活動している「オホーツク寒気団」の呼びかけで全国からヨロシク島観光協会、徳島阿波勝浦井戸端会議、足助町AT21などのほか、道内の団体等により約2、300人が参加しました。

1日目はオプショナルツアーで世界遺産「知床」への訪問でした。車窓から見える風景は、私たちが今まで見たことのない世界でした。一直線の道路や遠く見える地平線が広く続いているように見えます。知床観光船から見る羅臼岳などの知床の山々、断崖絶壁の海岸線、そこから海へ直接流れ落ちる数々の滝など、自然の美しさに圧倒されました。夕日がいっつもでも沈まず、ホテルの窓から見た夕焼けは目に焼き付いています。

2日目はサロマ湖畔に会場を移し、まず、ごつくん馬路村で有名な馬路村農業協同組合長の東谷望史による講演会が開催され、その後分科会による講演会が催され、その後分科会に分かれて全国のまちづくりがそれぞれ報告されました。その後、大交流会に移り、それぞれ親睦を深めました。

縁、宴、円、日付にちなみ0678「en」3日縁、宴、円と書かれたTシャツが作られたと繰り広げられた交流の最後で手を取り合ったり、交流の大きな円を作り、私たちの将来は自分たちで作るんだとみんなの手作りによるこの交流会が締めくくられました。自分たちも「わがまち」を作っていくんだと勇気づけられたものでした。

た。ガイドさんからカーテンを開けて寝るような夜明け(日の出が3時頃)には本意の驚かされた(延々と続く夜を長く貴重な時間にしていただくことができません)地域コミュニティが希薄になりつつある今日、地域住民が自ら考え、行動することが重要であり、全国で地域づくり活動を進めている団体が、先進事例やそれぞれの活動を学び、お互いの高め合せていく活動に開催をされたこの交流会に参加させていだき、全国から集まった志ある皆さんにお会いすることができたことをこの開催に関係された皆さんに感謝いたします。(村松達雄メダカ)

### メダカは縄文の森へ

屋久島は、水の豊かな島であった。田畑があり、水力発電所もある。かなり大きな川もあって、屋形船も楽しめる。周囲が二〇キロメートルもあり、年間一万ミリメートルの雨が降ることもあるが、それだけでは、水には恵まれない。豊かな水の元は、島を広く覆っている深い森である。日本で最初に世界自然遺産に指定された森は、標高千九百メートルほどの宮之浦岳から放射状に下る、いく筋もの川を育んでいる。海辺から山頂に向かって、熱帯から亜寒帯のさまざまな木や草などが繁る森が、年中豊かな水を蓄えている。その森の象徴的存在が、「縄文杉」である。七千年余り(二千年ぐらいいではとう説もあるらしい)生きていくという「縄文杉」を一度見て見たい。そんな杉が残っている古代の森の中を、実際に歩いてみたいと思つて来た。そして、数年前に「エコツーリズム」を知つてから、日本のエコツーリズムの本場である屋久島にいつかは行って見たいと考えていたところに、溝口久さんから屋久島行きのお誘いがあった。全国四七都道府県職員有志の交流組織であ

る「Jネット47」の総会が、七月中旬の海の日の含めた三連休に、屋久島で開かれるというので、参加を即答した。

二〇数人が三班に分かれて、往復一〇時間の登山に出発した。最初は、今でも屋久島の根の搬出や治山工事に使われているというトロッコ道を二時間ほど歩いた。それから急勾配の山道を登り始める。大きな杉はももちろん、大人が二人がかりでも抱えきれないほどのヒメシャヤナギなどが、何本も何本も立っていた。大小の木々の根元はたつぷりと水を含んだコケで覆われている。うっそうとした森の中を、たくさんの登山客と連なるようにして登った。有名な「ウイルソン株」には、思つていながら、縄文杉を目指した。しかし、それからは、自然保護のために登山道のかなりの部分に木の階段や棧橋が設置されているといえ、湿気のために滑りやすい急な登り道は、きつかった。二ヶ月ほど前から、磐田駅から中遠総合庁舎までの通勤を徒歩から、縄文杉ツアーに備えた効果は余りなかった。それでも、何とか、憧れの縄文杉の前に立つことができた。まじかに見る縄文杉は迫力があつた。岩山やビルよりもどっしりとした、地面に座つていた。しかも七千年も生きていくという。自分なりのこれまでの人生などあぶくにも届かないと思つて来た。

鹿児島県庁から出向されている「屋久町」の助役さんを始め、もうひとつある町の「上屋久町」の方々のガイドのお蔭で、縄文杉への本格的エコツアーができた。また、前泊した鹿児島島になった屋久島の皆さんや同行の「Jネット」の皆さんなど、三遠南信のメダカも圧倒されそうなのな方々と交流ができ、久しぶりな心身のリフレッシュと自己研鑽ができた。そして、地元産の焼酎に、屋久島名物の「首折れさば」の刺身やトビウオの揚げなど、なを肴にした懇親会も最高でした。(なんでもあり農園小作人の松)

### 「水のフォーラム」

平成18年8月6日にガーデンパークで開かれた「水フォーラム2006」ふるさと川の都田川」。多くの団体が参加して、メダカの学校も出店と展示で参加。出店ではくるくるウイナー、焼きそば、ところてん、紫芋といちごの水ようかん、もりてん工場の菓箱やプランター、展示コーナーでは水源地まつりや菜の花プロジェクトなど、村木校長を先頭に、そうそうたるメダカたち。食のほうは渡辺ミツ子チーフ、出展の方は鈴木智香枝と水島加寿代メダカ(上嶋裕志メダカは事前準備)。その他の出店も展示も都田川水源地まつりに関った人たちがばかり。まさに推して知るべしの大賑わいであった。全体のイベント?ももちろん盛り上げましたヨ。

### 都田水源地まつり & 菜の花プロジェクト

8月20日の日曜日、8時30分から16時まで学舎近くの都田ダム西岸のいなさ湖野外ステージを主会場に開催する。水と遊ぶ3つの探検隊A班都田川水源探検隊、B班久留女木の棚田の素晴らしさ再発見、C班都田ダム湖魚類発見隊。実験ものづくりでは炭で乾電池を作ったり、クラフト作りは炭検隊が持ち帰った水の水質検査。いかだを作つて湖面をエッサ、ワッサ。グルメリろいろでは松本芳廣メダカの手打ちそば、佐原剛メダカのくるくるウイナーなど食べ放題(五百円)。「メダカの学校の課外授業。楽しく遊んで知識も高めて汗もかく。自然の楽校」合言葉はみんなでキレイ!!。子連れで孫連れで、多くの人に声かけていただいで、みんなで夏の一日を楽しもう!実行委員長の石野省三メダカ。これだけ

では終わらないのが「めだかの学校」。一年を通して楽しむ菜の花プロジェクトの会員も募集。草刈、種まき、菜の花鑑賞、コンサートも。今年の菜の花150本、紫大根90本・・・開花実績でした。ハイ。

### 第24回地域づくり団体全国研修交流会愛知大会

地域づくり団体全国研修交流会愛知大会が11月10日(金)・11日(土)の2日間、愛知県名東区のウイル愛知(愛知県女性総合センター)で開催される。テーマは「一人」の元気が「地域」の元気・愛十智の国によるこそ。郷土「愛」からくる地域づくりの心と、「知りた」と思う人の出会いと交流を通じて、語り・学び・智恵を育てる集い。全体受付は10日11時。11時30分から昼食交流会、13時、14時30分まで全体会。14時30分まで全体会。14時30分から各地分科会へ移動。第一分科会犬山市から17分科会田原市まである。清洲市の「旧街道を活かす地域の知恵と文化」、豊明市の「地産地消を合言葉にした地域づくりの実践」、豊田市の地域資源を生かしたまちづくり、地域の宝探し!」など、各地域の特徴を生かした分科会が目白押し。特別分科会は、「まちコミ映像祭優秀作品上映&トーク」「地域づくりと映像づくりのしあわせな出会い」(10日9時30分〜11時30分)、会場ウイルあいち・定員80人無料がある。大会参加費7000円(資料代と交流会費)、宿泊料や夜なべ談義費などは各会場で違う。全国から面白い人や仕掛人が集まります。ただ分科会が多くて、それぞれの分科会会場の出合いが中心となります。とにかく近くのこと、どうぞ積極的に参加を!。参加希望者は先ず事務局榎原まで。大会案内パンフがあります。最終申し込みは9月1日。静岡県総務部地域振興室054・221・2057になります。(県単位で申込み)。

### 人・ひと・ヒト...だより

○浜松市の鈴木真弓メダカ、豊橋市駅前大通りの朝日画廊で、7月27日(木)〜8月8日(火)まで、彫刻・墨画・人形・マクラメの四人展を開催。いつも絶好調の真弓メダカ。便り遅れてゴメン。みんなが目にする頃は終わっているかも?

○島田市の土屋誠一メダカは、静岡市の新静岡センター6Fのギャラリー1枚倉で、8月1日(火)〜8月31日(木)まで、「土屋誠一彫刻展」を開く。サンドブラストと言う技法で石をはじめタイル、デニムなどを立体造形にした新しい彫刻の分野に挑戦している。

○豊橋市の金子芳美メダカ。「水俣を子どもに伝えるネットワーク」の豊橋事務局長として、環境保護や公害反対運動に功績のあった団体・個人に贈られる「田尻賞」を受賞。良かったね、芳美ちゃん。頑張ってるもんね。

○浜松市引佐町の森下芳則メダカ。NPOクラブ・ネイチャーを設立し、自然観察会を開いて、地域に残る豊かな自然の案内役を務めている。春にはメダカに関係する渋川つづじや、久留女木の棚田もお世話になってます。

○磐田市の井上啓子メダカ、浜松市の高木初美メダカ、ガラ紡愛好会の会長、事務局長として、こちらも大活躍。7月29日にガーデナーパークで開かれた「見て、知って、楽しむ・はまなこ集会」に参加。ガラ紡の活動を発表。ガーデナーパークには綿の種子を蒔きました。

○長野県の関京子メダカ。「坂部塾」を6月に開塾。地域の歴史を学ぶ。松田不秋メダカ、水島加寿代メダカも駆けつける。上嶋裕志メダカは、切り絵の講師として協力。超高齢化進行地域の貴重な歴史と文化をどう継承し遺していきけるか、大変ですが頑張ります。

○浜松市の加藤修一メダカ。昭和20年の浜松大空襲。町中は一瞬焼け野原に。そんな中、焼けずに逞しく生きつづけたプラタナス。感動した修一メダカ、小椋佳さんや静岡新聞、浜松市など多くの人の協力を得て、今年もまた8月20日(日)に「プラタナスコンサート」を開く。

○磐田市の今村純子メダカ。空き店舗の目立つ見付商店街をなんとかしようとして、空き店舗を借りて地元有志と「見付いっぶく処」を開店。採算が合わず一時閉店も検討されたが、ここは頑張り屋の純子メダカ。「常連のお客さんは裏切れない」と、今年6月に「見付の良いところを見つかる会」を立ち上げて軌道に。「まだ、人件費まで出ないけど、メダカさん、いっぶく処に遊びに来て!」だっ。

○森町の神原淑友メダカ。イエローハットの創業者・鎌山秀三郎さんの「日本を美しくしよう」に共鳴して、有志と月2回学校や公衆施設のトイレの清掃活動をやっている。素手でゴシゴシ。磨いた後の爽やかさは最高だっ。「自分の心は磨けないんで、公衆トイレだけでも」というけれど、頭が下がります。

○富士市の佐野久メダカ(昨年亡くなられた佐野玲子さんの夫)。ブルーベリー園を開園。玲子メダカのお丹精が久さんによって引き継がれ、実を結ぶ。ブラックベリーもある。摘み取りに来て!だっ。

○磐田市の八木正子メダカ。家庭の事情でしばらく休校を・・・高齢の親御さんのある身は避けて通れない。多くのメダカ生もまた、かくいう我らも子の世話になる日もそれほど遠くない。心して。

○静岡市の米田寛メダカ、来年は定年と。定年後はSBS学苑で蓄積した知識や経験をめだかの学校で活かしますぞ、だっ。

※ 来年は日本経済を支えた団塊の世代がドット地域へ。「めだかの学校」は、それら最高の人材の受け皿になりえないうか。めだかへの期待がふくらんでいる。若者もまた・・・」

### 来年9月は「めだかの学校」開校15周年

平成5年に開校して「めだかの学校」は開校15年になります。7月10日の職員会議で15周年をどうするか話し合いました。①15周年記念事業はどうするのか。②未発行の10周年記念誌との併合は。③ゾート通信社(社長・菅原一メダカ)が取りまとめ役となつている「全国まちづくり交流会」の静岡開校。④めだかの学校の同窓会。結論は、それぞれ委員会を作つて話し合うことに。委員の人選も。

①15周年記念事業  
(委員) 溝口久・松本芳廣・鈴木武史・水村春江

②未発行の10周年記念誌は15周年記念誌として発行する  
(委員) 水島加寿代・照井易子・鈴木智香枝・加藤修一

③全国まちづくり交流会  
地域づくり情報誌「かがり火」の静岡県支局長を中心に

(委員) 中嶋豊・鈴木武史・上嶋裕志・鈴木正士・村松達雄・伊藤茂男他

④めだかの学校同窓会については、通常の職員会議で話し合うことに。

⑤各委員会には、オプザーバー及び別途委員を指名できる。

「まだ先のこと」と思っているうちに一年は過ぎる。月日の経つのは早いもの。「第53回めだかの学校だより」この項を見た段階から委員会は始まります。委員の皆様よろしく願います。事務局へは報告のみでOKです。各委員会の進行状況は「めだかの便り」でお知らせします。

☆いやア、マイツタね、一冊の本  
6月9日、10日と高知県馬路村へ視察遠足に行ったときお会いした作家で京都在住の大歳昌彦さん(日本ペンクラブ会員)から「あの詩の子、この子の詩」の子ども詩画集が送られてきました。いやア、マイツタ、子どもたちの詩。面白くて楽しくていろいろ教えられます。その中からやっとな編の詩を選びました。

おもしろいしよだく書

高岡第一小学校三年 高橋 弥有

お父さんが

お兄ちゃんのマラソンのしよだく書に

「口をあけて走るので虫が入らないように  
気をつけてください」  
と書いた

お兄ちゃん

はずかしくて泣きながら消した。

わたしのしよだく書には

「美人なのでさらわれないように気をつけてください」  
と書いていた。

先生に見せると

大きな口をあけて わらった。

先生は

「しようちしました、おまもりします」  
とお父さんに返事を書いた。

「あはは。おもしろいね」

お父さんも先生と同じようにわらった。

(高知県子ども詩集「やまもも」第24集・  
高知新聞社)

この詩画集は、子どもたちの詩と大歳昌彦さんのエッセイや楽しいイラストで構成されている。子どもたちの詩のひとつひとつにはその情景が見えるようで吹き出したり、涙したり、微笑ましい。子どもに帰ったようなほっとした気持ちになる。現役校長の石野の省三メダカに見てもらったら、「先生や親たちにはぜひ見せたい!!」だって。浜

松地方の書店には出ていない。見たい人は事務局まで、

☆服部工房改め「もりぶ工房」で決まる

森町の服部守孝メダカの工房の名前が

「もりぶ工房」で決まりました。森町の

もり、守孝のもり、もりの「り」と英語

のリップ(生活)が重なっている「もりぶ」

造語です。今の製品は鳥の巣箱とエサ台、

各種プランターです。アクティ森で販売

しています。新商品も順次創っていきま

す。乞うご期待。

(問合せは05338・89・6885)

◆事務局だより

残暑お見舞い申し上げます。

今年の梅雨は長かったですね。8月に入ってやっと明けたという感じです。これも地球温暖化のなせる仕業でしょうか。

第52回のめだかの学校は6月2日。校長

鈴木智香枝、教頭古田賢二郎、用務員は

浜口広陸欠席で若澤明弘が代理。給食当

番大好きトリオ。テーマは「少しだけ中

国と仲良くなるう」。一時限は中国に語学

留学していた大場啓子先生。開口一番中

国とは仲良くなれません。聞けば政治統

制されていてメールすら監視されていて

政権を批判するような語句は全て漢字で

フタをされているコピーを見て、「そこま

ですの」と納得してしまつた。二時限

目は書道の大橋町代先生。さすが書道の

師範。数人の生徒を前に出して好きな文

字を書かせて添削。まさにパッチリ。三

時限目は太田民次先生。「私たちが中国を

訪問した時は大層なもてなしを受けまし

た」と。硬軟使い分けしているだろうこ

とが推察できる。授業の方は、声の出し

方からはじまり、先生のあとについて詩

を吟じる。大声を発して気分は最高。三

者三様の中国を味わうことができた。楽

しい給食の私語飲食全て禁止の次回3役

発表。校長先生村木謙次。教頭鈴木偉代、

用務員浜口弘陸。52回でできなかったの  
で再指名。引継ぎ時の用務員の代役は、  
藤枝の横山浩史メダカ。給食係は今回も  
給食係コミュニケーションの楽しさに魅  
せられた人が多い。感謝。

第53回のめだかの学校の職員会議を

7月10日午後七時から磐田市の元気村

「味里」で開く。9月1日の第53回は、

14期最初の授業。今回も野外で特別授業

に。テーマはこのところ花咲りの町づく

り、村づくり。それも失敗例を。先生は

取材で全国をとび回っている「ががり火」

発行人菅原敏一メダカ。「失敗から学ぶ」

「まちおこし わらおこし、なぜ失敗す

るのか」失敗の条件。あんなこと、こん

なこと。楽しい成功と失敗のうらおも

てが聞かれます。授業の方は早く決

まったが、その他の8月6日のガーデン

パークでの「水フォーラム」、8月20日

の「都田川水源まつり&菜の花プロジェクト」、来年の15周年事業などについて

も話し合う。話し合う内容が多くて8月

6日の水フォーラムと20日の水源まつ

りは時間が足りず、次回の7月28日に回

す。28日は味里が使えず、細江町の細江

文化センター礼法室で開く。8月6日の

「水フォーラム」の出席で何を出すか、

いつものように議論白出。結果は焼きそ

ばとところとんと水ようかん。展示パネ

ル展示の方は、都田川水源まつりの写真

や新聞記事などで飾りつけることに。そ

のあとの準備の方の話になると、もつと

大変の言いたい放題。意気も上がって「や

るゾー!!」はいいが、「おら知らない」

のまさにぶつつけ本番。8月20日の水源

まつりは「実績があるので何んとかなる

でしょう。チラシだけは作っておけば...」

あと一ヶ月もないというのに...これぞ

めだか流?。あとは参加者を待つのみ!

だって、「ねえ、めだかの便り、8月20日

までに間に合うの?」と心配の声しきり

学舎周辺の草刈と清掃  
8月27日(日)午前10時から、学  
舎周辺の草刈をします。草刈機、鎌  
など草刈のできる服装でお出掛け  
ください。お弁当持参です。森林浴  
を兼ねての健康楽校。草刈のできな  
い方は差し入れをお願いします。

■まさに今回もお詫ごとお礼

ごめん。蜂に手を刺されて、菌が

脳までのぼってボウソンだって、困

るねえ。今回も伊藤英雄メダカ、鈴

木武史メダカ、石野省三メダカ、本

島慎一郎メダカ、鈴木正士メダカ、

溝口久メダカ、水島加寿代メダカ、

いつもまとめてくれる照井泰子メ

ダカ、ありがとう。

■第14期の申込みと継続手続きを

受付けています。

14期は平成18年9月1日から

19年8月31日までです。まだ継続

手続きが済んでいない生徒は8月

31日までに済ませてください。手

続きを怠りますと、名簿からはずれ

自動退学となります。ご注意ください

い。

●めだかの便りの原稿を!

待っていますよ。次回の発行日は

11月1日予定です。10月20日まで

に郵便かFAXで事務局0533・54

5・0381。メールの方は照井易

子あて、Eメール/terui@

nbnnet.co.jp(メール送

信の方は割付の関係もあるのでこ

一報ください)。

□めだかの学校事務局

〒431-2533

静岡県浜松市引佐町東久留木4

72の1-1「リンドンバウム」内

※学舎「みどりの郷」は何もありま

せん。連絡・問い合わせは事務局まで。

榊原幸雄